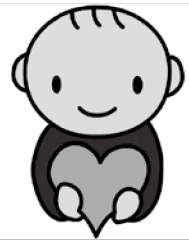


いっしょらぼ

いっしょらぼの「コラボレーション」



スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

いっしょの揺れ

発達障がいの子どもをもつ保護者の中には「普通の子と一緒にだよ」と人から言われ、その言葉で心がざわついたり、揺れたりすることがあるようです。

ある事例として、同じ特別支援学級に通う子どもを放課後の時間に一方の家で「お預かり」した時の預かった側のお母さんの話です。お迎えの際に相手のお母さんに「○○くん、普通の子と一緒にね」と声をかけてしまった、とのことでした。しかし、言った途端「ああ、自分がお母さんから言われてイヤな言葉を言ってしまった」と瞬間的に後悔したそうです。「いっしょに遊んであげて、他の子どもとそんな色ない」と言う意味で口をついて出た言葉だったようですが、そう思われるまでには、どれだけ保護者や家族が努力しているのか、どれだけ試行錯誤して支援や工夫を積み重ねてきたか。その大変さを身をもって知っているのに、まるでその大変さを理解していないで軽々しく言ってしまったようで、と話されていました。

発達障がいは見た目ではわかりにくいものです。どの子どもにも「言いたいことを聞かない」「落ち着きがない」「話を聞いていない」「ぼーっとしている」とりかかるといってしまいがちです。もちろん小さな子どもであれば、当然のことです。「うちの子、落ち着きないし、一回言ってもやらないし」と口にするれば、周りからは「うちだつてそうよ」「そついう年齢だから」「じきに落ち着くわよ」と共感のような反応が返ってくるでしょう。しかし、実際に発達障がい、と診断される子どもをもった場合には、我が子が「どうしたらできるよつになるのか」を、障がいを理解しながら子どもの特徴に気づき、ゆっくりじっくりと向き合い、小さな成長をかしめながら過ごしていかへくことになるのです。

「普通」に見える中にも多くのうよ曲折があるのは、どの家庭においても同じでしょう。子どもの健やかな成長を願わない

親はいません。しかし、受け入れることの難しさが伴う見えない障がいに対して、保護者や家族は「同年代の子は難なくできることでも、同じようにできないよつにするには試行錯誤しなくてはならない」「どうしてそんなところだつまついてしまうのだから」と障がいを受け入れるということと同様に、その障がいや子どもの特徴ゆえに、日常生活の中で、心のざわつきや心の揺れを抱えていることが少なくないのです。

では、私たちに何ができるのでしょうか。完璧に理解するということが求められているわけではありません。「普通と一緒に」という言葉は言っただけで、その背景を推察できるかどうかは、普段から障がいについて自分なりに気づき理解したり、その子どもとや家族のことを心に留める、ということによってくるのではないのでしょうか。わからないから言葉をかけない、のではなく、それぞれが自分のわかっている範囲で関わりながら子どもの成長を見守っていけるといいですね。

植物園だより

植物観察会のお知らせ

絶滅危惧植物を観察しよう

とき 6月8日(日)・22日(日)

10時30分から

11時30分まで

植物園職員

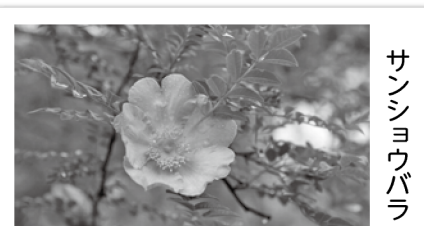
定員 各日20名

内容 植物園が取り組む絶滅危惧植物の保存活動や、見頃の植物について紹介します。

参加料 入園料のみ
小学生以上 1人1回100円
(展示館入館料含む)

※申し込み不要

*天候状況等により時間の短縮や観察会を中止にする場合があります。



サンショウバラ

今月中旬、甘く香るサンショウバラの花が見頃を迎えます。

◆6月花ごよみ

上旬

アヤメ、カラフトイバラ、ギョウジャニンニク、タニウツギ、ニッコウキスゲ、ヒトツバタゴ、ミヤマキリシマ、ムラサキ

中旬

カルイザワテンナンショウ、シヨウブ、ニッコウキスゲ、ノイバラ、ハコネウツギ、ハマナシ、ペニドワン、ヤマタバコ

下旬

イブキトラノオ、エゾノキリンソウ、キリガミネヒオウギアヤメ、サラサウツギ、ハンテンボク、ミヤマウラジロイチゴ

(※主なものを掲載)